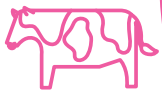
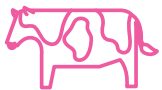


モンサントの

不自然な食べもの

これから

未来を生きるために
知っておきたい
多国籍企業のこと



監督：マリー＝モニク・ロバン カナダ国立映画制作庁・アルテフランス共同製作
(2008年/フランス、カナダ、ドイツ/108分/原題：Le monde selon Monsanto)
協力：作品社、大地を守る会、食と農から生物多様性を考える市民ネットワーク、
生活クラブ生協、株式会社アバンティ、日本オーガニックコットン協会

農業大国フランスで150万人が観た「食」、ひいては「いのち」をめぐるドキュメンタリー
ヨーロッパ各国のGMO(遺伝子組み換え作物)政策にも大きな影響を与えた話題作!



世界の胃袋を握ること ---

それがモンサントのビジネス戦略。

遺伝子組み換え世界シェア90%の、巨大グローバル企業のドキュメンタリー

私たちに身近な食品、豆腐や納豆、ポテトチップなどのラベルにかならずある「遺伝子組み換えでない」という表記。当たり前のように食卓にのぼる遺伝子組み換え作物、「不自然な食べもの」。果たしてそれはどこから来るのだろうか？

アメリカに本社を構えるアグロバイオ企業「モンサント社」、世界の遺伝子組み換え作物市場の90%を誇るグローバル企業の、クリーンなイメージに隠された裏の姿をカメラは追う。

遺伝子組み換え作物から、過去に発売された枯葉剤、

農薬、PCB、牛成長ホルモン。1世紀にわたるモンサント社のヴェールに包まれた歴史を、貴重な証言や機密文書によって検証していく。

自然界の遺伝的多様性や食の安全、環境への影響、農業に携わる人々の暮らしを意に介さないモンサント社のビジネス。本作は、生物の根幹である「タネ」を支配し利益ばかりを追求する現在の「食」の経済構造に強い疑問を投げかける。

経済のグローバル化にゆれる食の安全と、 不自然な食べもの = 遺伝子組み換え作物

農業、食の安全、医療、あらゆる分野で影響があるとされるTPP(環太平洋戦略的経済連携協定)など、急速に進む経済のグローバル化。作中に登場するアメリカやメキシコの深刻な状況は、すでにグローバルイズムに巻き込まれつつある、日本の明日の姿かもしれない。

不自然な食べもの(遺伝子組み換え作物)が環境、人体に与える影響は今だ計り知れない。毎日の食べ物を選ぶことは、生き方を選ぶこと。そして、知ることでする未来があること。「食」、ひいては「いのち」をめぐる世界の構造を暴く、今見るべきドキュメンタリー。

マリー＝モニク・ロバン監督



(2008年 / フランス、カナダ、ドイツ / 108分)



遺伝子組み換えとは??

ある特定の遺伝子の働きを、別の遺伝子に挿入して新しい性質の生物を作り出す化学技術。

例：大豆、ジャガイモ、コーン、トマト

